

■プロヴァンス地方

1. マルセイユ市の民家で銃器27点を押収

6月7日、マルセイユ市 Montolivet 地区で銃を隠し持っていたとして51歳の男が逮捕されました。男の自宅には武器を整備する為のアトリエがあり、2丁のカラシニコフ小銃を含む軍用銃が14丁見つかった他、数種類の銃が合計27点押収されました。警察当局は、今年初頭よりマルセイユ市周辺で頻発している素行不良者によるグループ間抗争との関わりの有無を捜査しています。

2. エクサンプロヴァンス市における防犯カメラの増設

現在エクサンプロヴァンス市では Cours Mirabeau や Cours Sextius 等中心部で治安に問題の多い5地域を重点的に防犯カメラが設置されていますが、防犯対策の有効性と効率の良さから今後 La zup や St-Europe 等の集合住宅が集まる地区等に新たに61台のカメラが増設される予定です。

3. 大気汚染による速度規制の引き下げ

エクサンプロヴァンス市、オーバーニュ市、マルティエグ市の各都市間を結んでいる高速道路 (A7, A50, A55) における平均交通量は1日30万台に及び、排気ガスによりこの地域で暮らす約40万人がEUの基準値を超える高濃度の粒子状物質にさらされています。また、Association santé environnement Franceの医師は、大気汚染によりマルセイユ市では市民が寿命を8ヶ月縮めていると推測しています。この事態を重く見てブーシュ・デュ・ローヌ県は、国道、高速道路 (RN296, RN568, A7, A50, A51, A55) の一部区間で7月初旬より順次最高速度規制を110km/hから90km/hに引き下げることにしました。

4. カランクの水質汚染

美しく澄んだ水と絶景で有名なカランクで水質汚染が確認されています。マルセイユ市南西部 Les Goudes に近い 旧鉛工場跡地である La calanque de l'escalette では水中から鉛、砒素、カドミウム、アンモニア、銅、亜鉛、硫黄等が検出され、土壌からは鉛と砒素が通常の1000倍の量検出されました。また開発等から保護されているカランク国立公園に隣接するカシ沖でも、ガルダンヌのアルミニウム工場から毎年1万8千トンの泥が排出されていると報告されています。

■コートダジュール地方・コルシカ島

1. ネックレスを狙ったひったくりが頻発

コートダジュール地方では6月1日から18日までの間、ネックレスを狙ったひったくり事件が251件(内ニース市では227件)発生しました。昨年度同時期の134件と比べると大幅に増加しています。被害者の90%が中高年の女性で一人の時に狙われており、犯行手口は、主に若者による犯行であり路上で近付きざまにネックレスを首からひきちぎり、時には被害者を押し倒し殴る等の暴行を加えた上で犯行に及ぶ悪質なケースもあります。

2. 鉄道施設内での事件が増加

プロヴァンス・アルプ・コートダジュール州(以下PACA)の鉄道施設における犯罪の75%はアルプ・マリタイム県、ブーシュ・デュ・ローヌ県で発生していますが、今年は特にコートダジュール地方の鉄道施設内での暴力事件が前年比で30~40%増加しています。この為現在PACA全体の鉄道警察官170人のうち40%は同地方に配置されており、事件現場で容疑者に職務質問する割合が90~95%と成果を上げています。

### 3. ニース市で猫が大繁殖

ニース市の路上では現在2万5千匹もの猫が確認されています。多数の猫が虐待されるなどする中、猫を保護する者と近隣の住民との間で衝突も起きています。更なる問題の原因となる繁殖を防ぐ為、動物保護団体(SDA)は市に助成金を要求し、今年より4年間に渡り12万ユーロが支給される見込みです。

### 4. 登山時の注意点

夏山シーズンに入り、当地方では山岳事故が相次いで起こっています。装備や経験、知識が不十分なまま入山する登山者も少なくなく、山岳警備隊は、自己の体力を過信せず出発前に必ず天気予報を確認し、悪天候が報じられた場合には予定を変更するよう呼びかけています。

## ■ミディ・ピレネー地方

### 1. 連続立てこもり事件の発生

6月7日早朝、トゥールーズ市で猟銃を持った男が警備員を人質にMétéo France社屋に立てこもりました。男は混乱した様子で不明瞭な事を口走り特に何かを要求する訳もなく、交渉に当たった警察官に向かって7回発砲した後、警察官の放った弾を腹部に受け取り押さえられました。また、20日には同市Côte Pavée地区の銀行にアルカイダを名乗る男が押し入り発砲、行員等4人を人質に立てこもりました。警察は周囲を特殊部隊で包囲し人質の解放・降伏を説得しました。事件発生4時間後より女性が1人ずつ、6時間後には男性2人も無事解放されました。男は警察との銃撃戦により負傷したところを取り押さえられました。

### 2. 大腸菌による食中毒

フランス南西部で6月中旬大腸菌が混入したと思われる挽き肉ステーキを食べた児童4人が食中毒の症状を訴えました。4人が食べたのはSociété des viandes élaborées社製の真空包装されたもので、賞味期限は5月28日より6月15日となっており既に賞味期限は過ぎていますが、万が一冷凍保存している場合、食べずに購入店へ届けるよう注意が呼びかけられています。挽き肉ステーキはJean Rozé、Netto、Top Budgetというブランド名でアリエージュ県を除くミディ・ピレネー地方全県のIntermarché、Nettoで販売されていました。

### 3. エネルギードリンクの危険性

食品衛生協会(ANSES)によると、以前から伝えられていたタウリンを含むエネルギードリンク飲料に起因するとされる心臓発作が原因の死亡事故が新たに2件確認されました。ANSESは特にスポーツ時の飲用、アルコールとの併用は心血管に重大なリスクを与える可能性があるとして注意を喚起しています。

### 4. 水難事故に注意

気温が上がり水辺で過ごす機会も増えていますが、当地方では6月に入り川で釣を楽しんでいた親子が流されたり、兄弟で遊んでいるうちに弟の一人が湖で溺れるといった水難事故が相次いで報告されています。